

次号予告

特集	障害受容と援助法 障害受容のプロセスと援助の仕方 (ケースワーカーの立場から).....聖マリアンナ医科大 深 沢 道 子 障害受容の過程と援助法.....都心障センター 古 牧 節 子 座談会/障害受容と援助法.....都心障センター 司会・寺 山 久美子 随想/ヨーロッパ車いす団体旅行.....石 坂 直 行 医学と生活.....寺 田 純 一 訓練は孤独なり.....松 村 美代子
とびら	患者側の評価.....七沢病院 福 井 罔 彦
講座	運動学シリーズVII 姿勢及び体幹・頸の運動学(1).....都養育院附属病院 柳 沢 健
展望	臨床におけることばくのリスク> (哲学的リハビリテーション人間学の 観点から).....有馬温泉病院 奈 良 勲
メディカル プロGRESS	障害者心理(4).....国立身体障害センター 永 井 昌 夫 リハビリテーション機器(4) (Environmental Control System)都補装具研 加倉井 周 一
Q and A	A 溝呂木忠・Q 細田多穂
本の紹介	C. C. Crutchfield and M. R. Barnes 著 (THE NEUROPHYSIOLOGICAL BASIS OF PATIENT TREATMENT) A PROGRAMMED TEXT VOLUME 1 THE MUSCLE SPINDLE. 清瀬リハビリテーション学院 伊 藤 直 栄 H. S. ヘルツカ・ビンズワンガー著 「豊かな遊びをつくるおもちゃ」.....自治医科大病院 篠 崎 直 子
資料	第12回理学療法士・作業療法士国家試験問題-模範解答(Ⅲ)(1977年度)

編集後記

この夏、読者の皆様は如何おすごしのことでしょうか。PT・OTの実情視察も兼ねて海外旅行を楽しんだ方もおられるようです。外国の様子はどんなでしたでしょうか。わが「理学療法と作業療法」の執筆陣もいっしょながら奪闘しております。

今月号の特集は「職業前評価と就労」をお届けいたします。テーマの関係でOTの執筆者が多くなりました。障害者の就労と医学的リハビリテーションのまとめとも云うべき職業前評価とは、従来、どうしてもつながりが持てないという批判がありました。職種で言えばPT・OTと職業関係者のギャップの問題です。今回は頸髄損傷者、精神薄弱者、精神分裂病者など複雑な問題を持つ患者を取り上げ、職業前評価及び就労を論じていただきました(寺山、早川、中川論文)。また職業前評価法について、現在いろいろのものが使われていますが、それらの特長、長所、問題点などを比較検

討してもらいました(沢論文)。その他、PTの職業前評価に果す役割について、喜田氏が脳性マヒ者を例にとって論じています。今後、職業分野においてPT・OTが見るべき成果を上げられることを期待します。

「とびら」の芳賀先生の一文はPT・OTとして必読のものと思われましょう。治療からリハビリテーション、教育、研究を広い分野に亘って今後活躍してほしいとのことです。

「講座」は「運動学シリーズVI・足部と足関節の運動学」で、足のことは今回で終了です。講師の先生、ありがとうございます。

「研究と報告」は、義足についていっしょながら精力的な研究をつづける兵庫リハビリテーションセンターチームの成果が発表されています。

暑さも日ましにしのぎやすくなり、PT・OT諸氏には今後一層の御活躍を祈ります。(寺山久美子)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長

五味 重 春
筑波大学心身障害学系教授

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長

津 山 直 一
東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎
川崎医科大学学長
(五十首頂、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部

佐 藤 馨
神奈川リハセンター

鈴木 明子
府中リハビリ学院

谷 岡 淳
自治医科大学

寺 山 久美子
都心障センター

福 屋 靖 子

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

明 石 謙

大 井 淑 雄

大 川 嗣 雄

大 橋 博

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

小 林 夏 子

駒 沢 治 夫

佐 藤 剛

田 原 澄 彦

富 岡 詔 子

奈 良 勲

藤 沢 しげ子

藤 本 欽 也

前 田 守

松 本 妙 子

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

横 山 巖

和 才 嘉 昭
(担当 細田・西塚)